

ANNUAL REPORT

NPO法人モンキーマジック
2025年度 活動報告書



さあ、まだ見ぬ壁が待っている。



20th Anniversary

「学術的研究」で

インクルーシブな社会を
より価値あるものに

NPO法人モンキーマジックは、2025年8月25日に設立20周年を迎えることができました。

2005年の設立以来、私たちが一貫して大切にしてきた「クライミングを通じた多様な人々の交流」は、今や国内のみならず、シンガポールや台湾といったアジアの仲間たちへも広がり、確かな潮流となっています。

この節目の年に報告できるトピックの一つが長年取り組んできた「交流型クライミング」が社会に与える影響についての学術的研究の成果です。客観的なデータに基づき、びわこ成蹊スポーツ大学の先生方と行なった共同研究（『交流型クライミング参加者の体験の意味の探求』）では、私たちが現場で感じてきた、この活動が「障害の理解」や「参加者の生きづらさの軽減」に寄与しているという実感が裏付けられ、それが単なる個人の感想に留まらず、社会的な「居場所感」の創出や、多様性への深い理解を促進する装置として機能していることが科学的にも示唆されました。この成果は、私たちの活動が単なるスポーツイベントに留まらないインクルーシブな社会を構築するための「有効な社会的処方」として、広く発信していくための大きな武器となります。

社会に目を向ければ
改正障害者差別
解消法の施行など、
制度面での整備は進んでいます。

しかし、真の「インクルーシブな社会」とは、法や社会に強制されるものではなく、一人ひとりがクライミングを共にした時のように、自然に多様な手段でコミュニケーションを図り、互いの可能性を信じ合える実感の中から宿るものだと思います。

2035年に向けて、私たちはこれまでの20年で築いた経験と、今回の研究で得られた知見を融合させ、さらに活動を加速させてまいります。20周年という通過点を越え、障害者を「手を差し伸べる相手」から「共に楽しむ仲間」への変化を、日本から世界の人々に広げていく決意です。

この1年の活動を支えてくださった皆さまに心より感謝申し上げますとともに、今後ともこの活動の発展をお支えいただき、より豊かな社会の実現のため共に登り続けていただけますようお願い申し上げます。



代表理事 小林 幸一郎

20年の感謝を胸に、次なる高みへ

副代表 水谷理

昨年、私たちは設立20周年という大きな節目を迎えました。今日まで歩んでこられたのは、皆さまの多大なるご寄付やご協賛があったからこそです。心より深く感謝申し上げます。

本年度は、活動の原点と未来をつなぐ取り組みとして、皆さまに参列いただいた「20周年感謝祭」の開催や調査研究発表会、外岩ルート開拓など、次の10年、20年を見据えた新たな一歩を刻むことができました。

財務面においては過年度に比べ、助成金への依存度を抑えつつ、寄付金や協賛金、そして自主事業の収益を伸ばすことができました。20周年という節目に際し、皆さまから多大なるご期待

をいただいた結果であり、重ねて御礼申し上げます。一方で、これからも真に自立した持続可能な財政基盤を確立していくことは、私たちの次なる成長に向けた核心となる取り組みです。

THE NORTH FACE様やCHUMS様をはじめとするパートナー企業の皆さま、そして長年支えてくださる個人の皆さまからの継続的なご支援は、私たちの活動の根幹となっております。皆さまとの信頼関係こそが、事務局の安定運営と、次なるチャレンジを支える原動力です。

これからも障害の有無に関わらず、誰もがクライミングを通じて自分らしく一歩を踏み出せる社会を目指します。引き続き応援のほどお願い申し上げます。

Summary

もくじ

代表挨拶・活動要旨

▶ P1

Voice

モンキーな人々に話を聞いてみた

▶ P3-6

Topic

2025年のトピック

▶ P7-12

Overview

モンキーマジックの事業

▶ P13

—— **主催事業** 地域交流型クライミングイベント
クライミングスクール・練習会
交流型クライミングイベント

▶ P14-18

—— **受託事業** 講演会・ワークショップ

▶ P18-19

—— **収益事業** サポートグッズ・寄付型自動販売機など

▶ P20

Media

メディア掲載・出演

▶ P21-23

Donation / Support

寄付・協賛のお願い

▶ P24-26

About

モンキーマジックについて

▶ P27

※「障害者」の表記については、公的機関でも使用している漢字での表記に統一しています。これは「障がい者」や「障碍者」などの表記に対して、「害」という表記のみに敏感になり本質を見落とすことがないように、という私どもの意志によるものです。

代表 小林 幸一郎(視覚障害当事者)

Voice

モンキーな人々に話を聞いてみた

Voice
01

アイボリーさん (50代)

アイボリーさんは視覚障害当事者の常連さんで、遠方でのモンキーマジックのイベントにも参加してくださっています。2025年は周年イベントにも足を運んでくださいました！

モンキーマジックとの出会い

2014年にNHK Eテレの「ブレイクスルー」で視覚障害者のフリークライマーと紹介されていて、初めて小林さんを知りました。翌年、当時茨城県つくば市でモンキーマジックが運営していたボルダリングジムのイベント「サタデーマジック」に参加したことがきっかけで、モンキーマジックのイベントやスクールに参加するようになりました。2025年で満10年が経ちました。

私は小林さんと同じ網膜色素変性症で、当時は平日は仕事、休日は決まったところに買い物に行くくらいで、家で過ごしていることが多かったです。小林さんが番組の中で、視力がだんだんと落ちてきている中でも、エリックさんに出会いに行ったり、モンキーマジックを立ち上げたりと活動的なことに感化され、自分も行ってみよう・やってみようと思うことは挑戦しようという気持ちになりました。

同時に、体力がなくなっていると気づき、走ったりするのは難しいと思ったこともあり、2015年にはじめてイベントに参加しました。

魅力だと感じてくださっていること

いろんな人がいて、いろんなところに行くきっかけになっていること。

モンキーマジックは毎月のマンデーマジック以外にも、色んなところでイベントをしていて、過去には大崎や有楽町での仮設壁のイベントや日比谷公園でのスポーツイベント、2025年は初めて山形や山梨に行ったり、20周年には表参道のイベントに遊びに



行ったりと、モンキーマジックのおかげで出かけるきっかけになっています。

自分だけでは行かないような場所へ行くきっかけになり、そこで新しい経験やたくさんの人に出会える。いつも刺激をもらえているから、楽しく参加し続けられています。

イベントに参加して感じたことや変化したこと

はじめて参加したときは、クライミングが難しくてイベントの時間中に登れなくなるほど疲れてしまったのが当時の思い出。

何度も参加するようになって、参加している自分と同じような視覚障害の方々とは色々な場所に出かけたりアクティブな人が多くて、聞いた話に影響されて自分も活動的になれたし、それまでの生活では知らないことだらけで、クライミングだけでなく視野が広がりました。

モンキーマジックに期待すること

私たち参加者が安心・安全に登れるよう、スタッフの方々が尽力くださっていて、本当に感謝しています。

今後も定期的にスクールやイベントを開催していただきたいです。

Voice 02

美月さん (20歳)

学生の美月さんはボランティアスタッフとしてマンデーマジックやモンキッズなどのイベントを日々支えています！

大学の非常勤講師をされているたみいさんとのご縁で、モンキーマジックの存在を知りました。もともと障害者スポーツについて興味があり、関連する授業も取っていたので、経験のあるボルダリングであれば何か力になれるのではないかと思います、マンデーマジックの学生ボランティアに応募しました。

魅力だと感じてくださっていること

障害のある方限定のイベントではないことだと思います。同じ課題をやっている、見え方や体の使い方、考え方が違うからこそ、そこに生まれるコミュニケーションや気づきがたくさんあり、参加するたびに新しい発見があります。それが魅力なのかなと思います。

参加する前は「全部サポートしなきゃ」と思っていたのですが、参加者の方に「ムーブは自分で考えるので、ホールドの位置だけ教えてください」と言われて、私が支



えるべきは思考力ではなく、目の代わりになることなのだと感じました。ホールドの位置を伝えるだけで十分な場面も多く、サポートの加減も少しずつ調整できるようになってきました。

モンキーマジックに期待すること

この活動に参加していることを人に伝えると、「目が見えない人ってどうやって登るの?」とよくびっくりされます。なので、クライミングは障害の有無に関わらずできて、誰もが自分のペースで自分らしい登り方を見つけられるということが色んな層の人に届いてほしいなと思います！



Voice 03

晴彦くん (12歳) と お母さん

交流イベント「モンキッズ」常連の晴彦くん。去年はクライミングを通じて仲間になったカイくん(写真右)とペアでモンキーマジックの目かくしコンペに出場しました。

ボルダリングイベントでたみいさんに声をかけられたことがモンキーマジックとの出会い。目かくししてクライミングする場所があるよと誘われて、前から目を閉じて登って楽しんでいたので興味があり気軽に参加しました。

晴彦くん：いろんな障害があったり、インターナショナルスクールに通っていたり普段会わない人たちと仲良くなれるのがうれしいです。

ブラインドクライミングは見えないスリルがあるし、ガイドしたりされたり協力して登るから楽しい。みんな協力してゲームの点数を競うのも面白いんです。あとおまけでモンキッズ後のランチが楽しみ。

お母さん：様々な環境にあるご家族と出会い、お話を聞くことでいかに自分が狭い世界に生きていたかを知り視野がとても広がりました。どんな子どもも大人も

受け入れてくれる温かい雰囲気が魅力です。

イベントに参加して感じたことや変化したこと

晴彦くん：知識としてはわかっていただけ障害のある子どもが実際にいるんだなと実感したのと、障害のある人に対して前より優しい気持ちを持てるようになりました。障害がある人は何となくおとなしい人が多いと思っていましたが、今思えば当たり前だけにぎやかだったりおしゃべりだったりする人がいて驚きました。

目かくしコンペで90分間ずっと目かくしをした時は、

Voice 04

ちはるさん (40代)

視覚障害当事者のちはるさんは、チャレンジドガールズスクールや地域交流イベントにも精力的に参加されています。

もともと身体を動かすのは好きでボルダリングにも興味はありましたが、一人での挑戦は抵抗があったので、大阪のイベントに参加した友人から「一緒にクライミングに行ってみない?」と誘われた時、即座に参加を決めました。2025年1月に初めてチャレンジドガールズクライミングスクールに参加しました。

初回は分からないことだらけで戸惑うこともありましたが、ゴールできた時の達成感がたまりませんでした！その後、何度もスクールに参加し、ゴールできない時の悔しさも含め、どんどんクライミングの魅力にはまっていきました。続けているうちにマイシューズやハーネスも欲しくなり、気づけば買ってしまっていました(笑)クライミングを始めて1年少し経ち、色々なホールドに触り、少しずつレベルアップしていることにとってもやりがいを感じています。

魅力に感じてくださっていること

大人になると自主的に身体を動かす機会はなかなかないので、定期的な運動のきっかけとなっていて助かっています。チャレンジドガールズクライミングスクールは参加費もリーズナブルで継続参加しやすいです。

ガイドをしてもらっていたけど、歩く時に見えなくて怖くて、見えない人の感覚が少しわかった気がします。(※キッズロッククライミング) 合宿では、見えない子どもガイドがないのに手探りで登っていてすごいと思いました。あとずっと一緒にいたので、意識しなくてもガイドができるようになっていました。ロッククライミング楽しかった！

お母さん：月に一回のモンキッズ仲間と会い、クライミングすることをとても楽しみにしています。学校が苦手な息子にとって家庭外の居場所が今まであまりなかったのですが、モンキッズのおおらか雰囲気の中でリラックスして楽しんでいるのを見ると、ホームを見つけれただととてもうれしい気持ちになりました。また、今までは失敗を受け止めることが苦手で痾癩を起



また、クライミングジムの最寄り駅で待ち合わせて、ジムまでと駅までの帰り道を案内していただけるのも参加のハードルを下げていると思います。

さらに、他の参加者さんや保護者の方、スタッフの方々など、これまで関わりのなかった方々と話したり交流できるのも良い経験になっています。その中で「濱モンキー」の存在を知り、これまで行ったことなかった場所への外出、そして、また新たな方々との出会いとクライミング以外にもたくさんの良い経験をさせていただいております。今後は登ることだけでなく、ビレイのお手伝いできればと思っています。

モンキーマジックに期待すること

私たち参加者が安心・安全に登れるよう、スタッフの方々が尽力くださっていて、本当に感謝しています。今後も定期的にスクールやイベントを開催していただきたいです。

こしたり不機嫌になったりしていましたが、ブラインドクライミング検定で失敗しても「次も頑張る!」と明るく言っていて成長を感じました。普段口に出さないのだから知らなかったのですが、モンキーマジックの活動を通じて私が思っている以上に障害者の方に対する自分の意見をしっかり持っていたんだと感じました。知識だけではなく多様な価値観に触れることのできるモンキーマジックは、すべての人に体験していただきたい素晴らしいものだと思います。

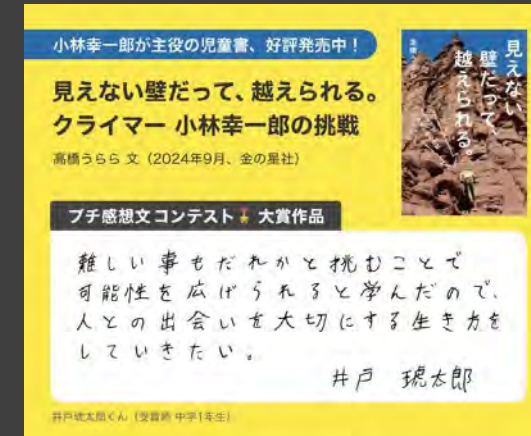
モンキーマジックに期待すること

晴彦くん：もっとモンキーマジックが大きくなって、世の中のたくさんの人が障害のある人たちと交流できるようになるといいと思います。

Topic

2025年のトピック

代表小林が主役の児童書が出版されました。



代表小林の半生を追った児童書「見えない壁だって、越えられる。クライマー小林幸一郎の挑戦」の出版を記念し、小林の年齢にちなんだ「56文字のブチ感想文コンテスト」と題して、読書感想文を募集しました。大賞を受賞した瑠太郎くんと代表小林で対談した様子をnoteの記事にまとめ、公開しました。

<https://note.com/npomonkeymagic/n/nbb274c13b234>

筑波大学附属視覚特別支援学校へ仮設ボルダリングウォールを寄贈し、特別授業を実施



3月10日(月)、東京都文京区にある筑波大学附属視覚特別支援学校へ、モンキーマジックの仮設ボルダリングウォールを寄贈しました。寄贈に伴い、同校の高等部(1~2年生)、中学部(1~2年生)、そして小学部の児童・生徒のみなさんを対象に、体育の授業の一環としてボルダリング特別授業を実施しました

日本野外教育学会にて、調査研究についての発表を行いました



6月28日(土)・29日(日)の2日間、奈良県天理市の天理大学で開催された「第28回日本野外教育学会」に、NPO法人モンキーマジックのスタッフ・伊藤と代表・小林が参加。昨年9月から今年3月にかけて全国各地で開催された交流型クライミングイベントの社会的意義を明らかにすることを目的とし、びわこ成蹊スポーツ大学との共同研究による調査成果を発表しました。

モンキーマジック20周年記念 調査研究発表会を開催



7月16日(水)、モンキーマジック20周年を記念した最新調査研究発表会『交流型クライミングが拓く共生社会の可能性』を開催しました。これまで全国で実施してきた「交流型クライミングイベント」を対象にした最新の研究成果を発表し、参加者の体験が学術的に「居場所感」や「生きづらさの軽減」など、単なるスポーツを超えた価値をもたらしていることを示唆する具体的なデータを紹介しながら報告しました。

筑波大学附属視覚特別支援学校にてボルダリングの特別授業



7月16日(水)、東京都文京区にある筑波大学附属視覚特別支援学校にて小学部(4-6年生)と高等部(1年生)の児童・生徒を対象に、ボルダリングの特別授業を担当させていただきました。参加してくれた子どもたちは汗をかき、仲間を応援し、全力で楽しんでくれて、高校生からは代表小林の人生について質問を受け付けるなど大変有意義な時間となりました。

北九州市で「登るチカラ、つなぐ未来~小林幸一郎さんと描くインクルーシブなまちづくり~」クライミング体験会、講演



7月11日(金)~13日(日)の3日間、北九州市にて「登るチカラ、つなぐ未来~小林幸一郎さんと描くインクルーシブなまちづくり~」をテーマに、ワークショップやクライミング交流を通じて、「誰もが自分らしく生きられるインクルーシブなまちづくり」を考えるイベントが開催されました。

北九州視覚特別支援学校をはじめ複数の学校で講演を行い、2日目は『ライフ・イズ・クライミング!』の上映会とトークセッションを、3日目はクライミング体験会を行い、期間内で本当にたくさんの方にご参加いただきました。

江崎グリコ株式会社様にて講演を行いました



7月30日(水)に大阪府大阪市の江崎グリコ株式会社本社にて、SCM事業部の皆さまへ代表小林が講演しました。40名程度の社員の方に加え、サテライトで中継され海外の拠点でも100名以上の方に聴講いただきました。質疑応答では仕事と人生のバランスについての考え方や、代表小林が期待するテクノロジーに関する質問など多岐に渡りました。

「キッズ ロッククライミング合宿」開催



7月28日(月)から30日(水)の2泊3日で、長野県川上村の小川山にて「キッズ ロッククライミング合宿」を開催しました。障害の有無問わず普段からモンキーマジックの教室やイベントに参加している小学4年生から中学3年生までの子どもたち11名(視覚障害6名、その他の障害1名)が参加しました。新しくできた仲間や新たな自分と出会い、忘れられない夏の思い出を作ってくれたと思います。

2025.08.24

NPO法人モンキーマジック20周年感謝祭を開催



8月24日(日)、東京・両国の国際ファッションセンター(KFCホール)にて、NPO法人モンキーマジック設立20周年を記念する感謝祭「さあ、まだ見ぬ壁が待っている。」を開催しました。来場者、登壇者、スタッフ総勢約130名にて、モンキーマジックの20周年を共にお祝いしました。20年の歩みに始まり、最新の調査研究発表や関係者の皆さまのトークセッション、そして代表小林からの決意表明にて締め括られました。

懇親会では20年間の歩みを振り返りながら世代や立場を超えて、多くの方々が笑顔で語り合う姿が見られました。

THE NORTH FACE×CHUMS : MONKEY MAGIC 20th SPECIAL EVENTが開催されました



8月29日(金)~31日(日)の3日間、ゴールドウイン東京本社1Fホールで、THE NORTH FACEとCHUMS主催「モンキーマジック20周年記念スペシャルイベント」が開催されました。初日は、代表小林とTHE NORTH FACEアスリートの平山ユージさん、伊藤ふたばさん、CHUMSアスリートの小田菜摘さんを迎えたトークと、特設ボルダリングウォールでアイマスクを着用してのクライミングやガイドにも挑戦いただきました。週末にも多くの方が遊びにきてくださり、クライミングを通じて広がった縁を感じました。

第1回全国交流型クライミングイベント 地域運営スタッフオンラインミーティングを開催



このオンラインミーティングは全国各地で交流型クライミングイベントを運営するスタッフの皆さんとの新たな意見交換や悩み相談、情報共有の場です。地域ごとの特性によって工夫や課題が異なる状況で、私たちモンキーマジックがサポートをできることを探し、全国イベントカレンダーなどのアイデアを実現していきます。

【20周年記念】 記念サポートTシャツを発表！



20周年記念デザインとして、クラシックTシャツの「多様性/ダイバーシティ」をイメージしたカラフルグラデーションを期間限定で発表しました。視覚障害者向けのアウトドアスクール事業を設立当初2005年に開始した、活動のルーツである当時のTシャツデザインが基になっています。

台湾での活動がNHKワールドにて紹介されました

NHKワールドにて「誰もが楽しめるクライミングを世界へ」をテーマに、台湾で開催された交流型クライミングイベントの様子が取り上げられ、英語での放送が開始しました。「インクルーシブクライミング」/NHK World — “Inclusive Climbing” in English

株式会社ゴールドウインのコーポレートサイトに、モンキーマジック20周年イベントのレポートが掲載されました

ゴールドウイン東京本社行われた、MONKEY MAGIC 20th SPECIAL EVENTの開催報告が掲載され、平山ユージさんをはじめとしたトークやクライミングセッションに参加されたクライマーの皆さま、取締役専務執行役員の森さんよりメッセージをいただきました。

山梨県北杜市・甲府幕岩に新ルート2本を開拓しました



20周年を記念し、竹本俊博さん監修のもと外岩に新しいクライミングルートを開拓する機会に恵まれました。障害の有無に関わらず多くの方の新たな挑戦の場となり、クライミングの喜びを分かち合うきっかけとなることを心から願っています。今後は、甲府幕岩新エリアのトポが完成する際には、本ルートも一緒に掲載される予定です。本公開をぜひ楽しみに！

第25期 朝日ライフ SRI 社会貢献ファンドの寄付先に採択！

10月に朝日ライフ アセットマネジメント株式会社のSRI 社会貢献ファンド(愛称:あすのはね)の、第24期寄付先 7団体のひとつに選んでいただきました。贈呈式では、代表小林・副代表水谷が参加し、モンキーマジックの活動報告をさせていただきました。

第11回 見ざるチャレンジクライミングを開催！



設立10周年の年に始まった主催目かくしクライミングコンペ。クライミングジムNOSE町田店にて、今年は12月に開催しました。参加者は23組59名(内、視覚障害10名、身体機能障害1名・サイトガイドを含む)で、たくさんのボランティアの方にも関わっていただき、表彰式・アフターパーティーまで大盛況でした。

Overview

モンキーマジックの事業

Overview

主催事業

- ① クライミングスクール・練習会
- ② 交流型クライミングイベント
- ③ 地域交流型クライミングイベント

受託事業

普及・啓発・広報事業
講演会・ワークショップ・上映会

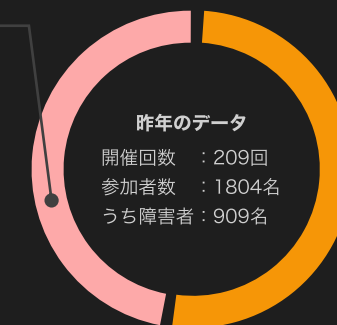
事業インパクト (主催のみ)

2025年の開催実績

✓ 開催回数
総計 **263**回

✓ 参加者数
のべ **2116**名

✓ うち障害者
のべ **1044**名
(視覚/聴覚/身体機能/重複含む)



主催
事業 **1**

障害者クライミング普及事業

クライミングスクール・練習会

クライミングスクール・練習会

アウトドアスクール (湯河原幕岩、甲府幕岩、兜山)

開催回数 **3**回 参加者 **14**名 (うち障害者 **10**名)

内訳 視覚障害 8名 聴覚障害 1名 身体機能 1名

インドア/ステップアップスクール (大古田正裕さん、阿部桃子さん指導)

開催回数 **9**回 参加者 **36**名 (うち障害者 **34**名)

内訳 視覚障害 31名 身体機能 3名

練習会

開催回数 **5**回 参加者 **23**名 (うち障害者 **23**名)

内訳 視覚障害 19名 身体機能 4名

チャレンジドガールズクライミングスクール

開催回数 **54**回 参加者 **215**名 (うち障害者 **215**名)

内訳 視覚障害 155名 身体機能 21名 その他 39名

本企画は「障害のある女性の自立支援を目的としたクライミングプロジェクト」の一環として
ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団から「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」助成を受け実施しています。

発達障害児者のクライミング機会 拡大プロジェクト

開催回数 **12**回
参加者 **123**名 (うち障害者 **61**名)

障害の内訳 **61**名
知的・発達障害、視覚障害、身体機能 (重複含む)

小川山 キッズ ロッククライミング合宿

開催回数 **1**回 (3日間)
参加者 **11**名 (うち障害者 **7**名)

障害の内訳
視覚障害 **6**名 その他 **1**名

主催事業 **2** 多様性理解促進事業 交流型クライミングイベント

マンデーマジック東京@高田馬場

開催回数 **12**回 参加者 **226**名 (うち障害者 **116**名)

内訳 視覚障害 **97** 身体機能 **8** 聴覚障害 **3** その他 **8**名

マンデーマジック東京@葛西

開催回数 **12**回 参加者 **87**名 (うち障害者 **72**名)

内訳 視覚障害 **53** 身体機能 **17** その他 **2**名

マンデーマジック横浜@戸塚

開催回数 **12**回 参加者 **88**名 (うち障害者 **60**名)

内訳 視覚障害 **50** 身体機能 **1** 聴覚障害 **6** その他 **3**名

モンキッズ

開催回数 **12**回 参加者 **71**名 (うち障害者 **26**名) ※子どものみ

内訳 視覚障害 **20**名 その他 **6**名 (重複含む)

主催事業 **3** 多様性理解促進事業 地域交流型クライミングイベント

活動趣旨に賛同して下さった有志により、全国で地域交流イベントが開催・運営されています。



あなたのお住まいの近くで
開催しているイベントを
チェック!



Overseas



Merdeka Monkey
(シンガポール)

New

Formosa Monkey
(台湾)

海外

主催地域 **2** 力国

日本国内

開催回数 **131**回 / **15** 地域 (テスト開催は除く)

主催地域 **17** 地域

参加者数 **1312**名 (うち障害者のべ **489**名)

昨年のデータ

開催回数 : 109回
(13地域)
主催地域 : 15地域
参加者数 : 963名
うち障害者 : 311名

地域交流型クライミングイベントの3つのポイント

- 地域の人々が主催して定期的に開催する地域に根ざしたクライミングイベント
- 障害の有無や年齢・性別・国籍などの違いに関係なく、全員が同じいち参加者
- 新しい人と人がつながり、多様性を認め合い、クライミングを楽しむ仲間になれる場所

Interview

それぞれ地域交流イベントを運営する代表お二人にお話を聞きました！

01

メルデカモンキー@シンガポール Jun Xiangさん Zedongさん



イベントをはじめたきっかけ

Outpostではこれまでも、特別なニーズや障害のある方々にクライミングの機会を提供してきました。ただし、それは主に関連団体や支援機関からの依頼に応じる、受動的・反動的な形での取り組みでした。イベントを受け入れ、対応する体制は整っていましたが、自ら積極的に当事者を募ることはしていませんでした。

モンキーマジックとの連携で、私たちはより主体的に参加者と関わっていく方向性を得ることができました。この分野で長年の経験と実績を持つ団体と一緒に取り組めることに、大きな期待と興奮を感じました。また、Kobaさんの存在や影響力も、コミュニティにとって大きなモチベーションです。

メルデカモンキーの雰囲気や特徴

参加者から観客まで、多くの方が好奇心を持ち、オープンで学ぶ姿勢を持って参加していました。(昨年開催したブラインドコンペは)競技である以上、緊張感や熱気もありましたが、単に勝つことだけを目的としているわけではない空気がありました。むしろ、互いに支え合いながら、視覚障害のあるクライマーが参加するために工夫された形式の中で、その挑戦を実際に体験しようという姿勢が印象的でした。

「社会がちょっと良くなったかも」と感じる瞬間や、周りの変化はありますか？

Merdeka Monkeyのセッションや、視覚障害のある方とそうでない方がチームを組むBeyond Sightの形式を通じて、参加者やボランティアは多くの時間を共に過ごしてきました。壁の上でも下でも共有された体験を通して、どのようにサポートすればよいかを学び、視覚障害のある方の体験を理解し、そして何よりも「一人の友人」として接するようになっていった様子が見られました。

また、障害があるからといって人生が大きく制限されるわけではないということも、参加者自身が学んでいきました。誰かをサポートする中で、自分自身もまた刺激やインスピレーションを受けています。さらに、同じ想いを持つ人たち同士のつながりも広がり、コミュニティとしての結びつきも強まっています。

印象的なエピソードとしては、ある学生グループがKobaさんとペアになった場面があります。イベントの最初は、どのようにサポートすればよいかかわからず、後ろに置いて行ってしまったり、適切にガイドできなかつたりする様子も見られました。しかし、イベントが進むにつれてコミュニケーションの取り方を学び、壁の上でも下でも自然に関われるようになっていきました。

今後のビジョンや展望

Outpost Climbingとしては、Merdeka Monkeyを通じて、より多くの障害のある方々がクライミングを体験できる機会を創出していきたいと考えています。また、さまざまな障害に対応できるよう、知識やリソースを拡充し、より多様な方々を受け入れられる環境を整えていきたいです。

そして、単に自分自身のグレード向上を目指すだけでなく、「より多くの人にとってクライミングを開かれたものにする」という視点を持ったクライマーコミュニティを育てていくことも目標です。将来的には、SDSC(Singapore Disability Sports Council)と連携し、シンガポール初のパラクライミングチームの育成に関わることができれば、それは私たちにとって大きな目標の一つです。同時に、インクルーシブなクライミングコミュニティの形成に貢献する存在として認知されることも目指しています。



02

伊達モンキー@仙台(宮城県) ゆーやんさん

「社会がちょっと良くなったかも」と感じる瞬間や、周りの変化はありますか？

第8回目を終えて、同じ顔ぶれの参加者もいる中、もっと楽しく続けていってもらう為にも必要になるのが自分の道具だと思のですが、物の値段が上がっていく中で、勧めにくいところではありました。しかし、先日のイベントで皆勤賞の方に初めてシューズの大事さを伝えることができました。購入はまた次回となりましたが、これを機にステップアップしてもらおうかと思っています。

今後のビジョンや展望

スタッフ一同とにかくメンバーにはクライミングを楽しんでもらいたいと思っています。

そして、個人的な目標となりますが、伊達モンキーでロッククライミングツアーを組むことです。

イベントをはじめたきっかけ

これまでも仙台で障害者の方のサポートをしてきたのですが、競技志向になっていたのもあり、長く続けるユーザーがおりませんでした。

この交流型イベントは『障害の有無関係なくクライミングを楽しむ』そんな趣旨とのことで、単純に『楽しそう』そう思って始めました。

伊達モンキーの雰囲気や特徴

東北人は引っ込み思案が多いのですが(笑)、伊達モンキーではどなたでも参加OKですので、殻を破って挑戦しにきてもらいたいです！

スタッフも経験者揃いですので、何でも聞いてみてください。

受託事業

普及・啓発・広報事業
講演会・ワークショップ

クライミング指導 (HKK講習含む)

- ・ 姫路広陵ライオンズクラブ結成50周年記念上映会を開催
- ・ パラスポーツ教室ボルダリングの講師を担当
- ・ 発達障害のある若者のクライミング指導を担当 (2月/3月/4月/5月/9月/11月)
- ・ ビジョンパークでのボルダリング体験会指導を担当
- ・ 武蔵野市障害者福祉センター主催「ボルダリング講習会」講師を担当
- ・ 筑波大学附属視覚特別支援学校へ仮設ボルダリングウォールを寄贈し、特別授業を実施
- ・ NPO法人Next one.クライミングプログラム指導を担当
- ・ 山梨県北杜市にて、北杜市・THE NORTH FACE連携事業 Challenge Climbing in HOKUTO 2025が開催。ボルダリング体験会を指導
- ・ 神奈川県立スポーツセンターにてボルダリング指導を担当
- ・ 筑波大学附属視覚特別支援学校にて、ボルダリングの特別授業を実施
- ・ NPO法人Next one.ロッククライミングキャンプの指導を担当

- ・筑波技術大学の障がい者のためのスポーツイベントにてボルダリング体験を担当
- ・フリースクールの子どもたち対象のクライミング体験指導を担当
- ・視覚障害のある青年たちとその家族のデイキャンプの指導を担当しました

講演・特別授業・研修

- ・神奈川県パラスポーツ指導者協議会にて研修会を担当
- ・東京・台東区 西蔵院にて、代表・小林が講演を行いました
- ・【北九州市】登るチカラ、つなぐ未来~小林幸一郎さんと描くインクルーシブなまちづくり~
- ・江崎グリコ株式会社様にて講演を行いました
- ・【映画上映】福井県で『ライフ・イズ・クライミング!』上映&トークショー
- ・東京都墨田区保護司会地域集会にて講演
- ・宮城県大崎市鳴子温泉の児童館のクライミング壁お披露目式に出席
- ・筑波大学附属視覚特別支援学校の教員向け研修会で講師を務めました
- ・筑波技術大学体育集中授業の指導を担当しました
- ・東京都武蔵野市にて代表小林が講演
- ・東京都立桐ヶ丘高等学校にて副代表水谷が特別講師
- ・びわこ成蹊スポーツ大学にて特別講師を担当
- ・慶應大学湘南藤沢キャンパスにてゲスト講師を担当
- ・東洋大学にてゲスト講師を担当

その他

- ・徳島県小松島市にて『ライフ・イズ・クライミング!』上映会と阿波ZARUイベント開催!
- ・『ライフ・イズ・クライミング!』の自主上映会を東京にて開催
- ・岡山県奈義町「Asian Hope Lab.」にて『ライフ・イズ・クライミング!』上映会を開催しました
- ・インターナショナルスクールで、NGO/NPOの紹介ブースに参加しました

その他

収益事業

サポートグッズ・寄付型自動販売機など

サポートグッズ

THE NORTH FACE サポートTシャツ

記念すべき20作目は、コミュニケーションに欠かせない「音」がテーマ。音の「波長」からインスピレーションを得て、ホールドや山に見立てた背面グラフィックと袖に20周年のモンキーのワンポイント。



CHUMS サポートグッズ

コラボレーション14作目の2025年モデルは、メッシュ素材から透けて見える「NO SIGHT BUT ON SIGHT」が印象的な、機能性と遊び心を備えたデザイン。



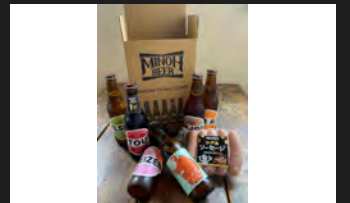
ROKX(ロックス)クライミングパンツ

コラボ5年目は定番のストレッチの効いたチノパン各種、インナーがフリースで防寒対策もバッチリなトラックパンツの2種類が登場。



箕面ビール

おさる繋がりのお阪のクラフトビール「箕面ビール」では、お中元・お歳暮におすすめな「モンキーギフトソーセージセット」が好評です。



その他の事業

寄付型自動販売機

モンキーマジックの活動に賛同いただいたクライミング・ボルダリングジムはじめ各施設に設置いただいている寄付型自動販売機。売り上げの一部が寄付となり、障害者クライミング普及の支援に使われます。

講演会・上映会・ワークショップのご案内

時間や内容などご要望に応じた講演会やワークショップ、上映会などを承ります。学校や企業研修など場面に応じた内容をご提供します。

多様性をテーマにした講演会やワークショップ、小林幸一郎のライフストーリー講演会等内容もご要望に合わせて実施可能です。日時・内容など、お気軽にご相談下さい。



Media

メディア掲載・出演

書籍

代表小林が主役の児童書の56文字のプチ感想文コンテスト、大賞が決定！

書籍「見えない壁だって、越えられる。 クライマー 小林幸一郎の挑戦」(高橋うらら文、金の星社)の出版を記念して、短い56文字以下の「プチ感想文」を募集！当時中学1年生の井戸琥太郎くんの感想文が大賞を受賞しました。

TV放送

NHK BS「国際報道2025」で台湾での活動が紹介されました

7月29日（火）放送のNHK BS番組「国際報道2025」にて、台湾で開催された交流型クライミングイベントの様子が紹介されました。

誌面掲載

日本フィランソロピー協会のアニュアルレポートに掲載

企業や個人による社会貢献活動の促進や次世代を担う人材の育成など、社会の持続的な発展に向けた啓発・支援事業を行う公益社団法人日本フィランソロピー協会（JPA）のアニュアルレポートに、「ボランティアウェブ」を通じて、モンキーマジックのスクールにビレイヤーとしてご参加いただいた方の感想が掲載され、活動が紹介されました。

新聞掲載

モンキーマジック設立記念日の8/25に東京新聞に記事が掲載

小林のライフストーリーとモンキーマジックのこれまでの活動について丁寧に取材していただき、～「見えない壁も越えられる」視力を失ってもクライミングの輪を広げる小林幸一郎さん 不安な気持ちを変えた言葉～として東京新聞の公式YouTubeチャンネルにも動画が掲載されました。

新聞掲載

日本教育新聞に20周年感謝祭の記事が掲載

日本教育新聞の誌面及びウェブ版に、モンキーマジック20周年感謝祭の取材記事が掲載されました。また、20年にわたる活動や代表小林の決意表明について丁寧に取材していただきました。「パラクライミング普及へ尽力 視覚障害ある子に体験の場」

TV放送

【英語放送】台湾での活動がNHKワールドにて紹介 — 「インクルーシブクライミング」英語放送開始

NHKの国際放送「NHKワールド」にて、「インクルーシブクライミング」の英語放送がスタートしました。「インクルーシブクライミング」英語放送開始/NHK World — “Inclusive Climbing” in English

Web掲載

20周年感謝祭をWebメディア「スポットライト」に取材していただきました

株式会社mitsukiのメディア「Spotlite（スポットライト）」にて、当日のプログラムについて丁寧に記事にいただいています。～「さあ、まだ見ぬ壁が待っている。」視覚障害者のフリークライミング団体イベントに、アートルライターが参加しました～

Web掲載

地域づくり情報サイト「かがり火WEB」に掲載

1987年創刊の地域づくり情報誌『かがり火』のWEB版に、代表小林のインタビューが掲載されました。～「見えない壁だって、越えられる」視覚障害のあるクライマー・小林幸一郎さん～

誌面掲載

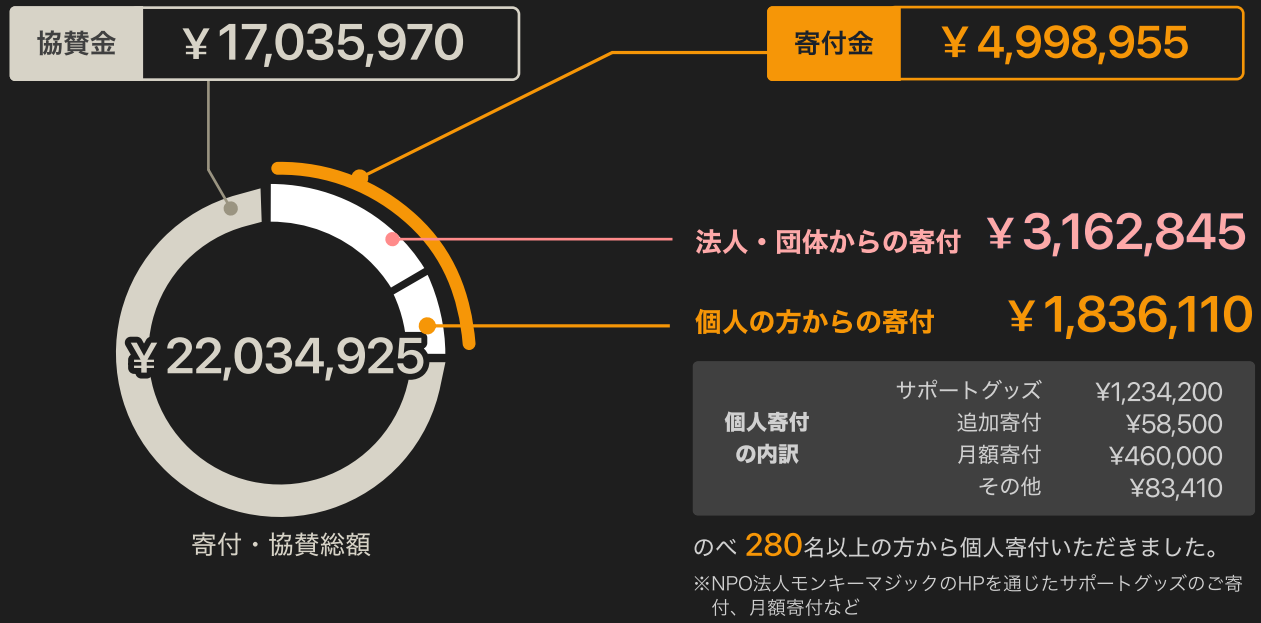
週刊新潮に掲載されました

11/22(土)発売の「週刊新潮（紙面・電子版）」に、代表小林の半生について取材いただいた記事が掲載されました。（Webメディアのデイリー新潮にも掲載）
「アスリート列伝 覚醒の時／小林信也」

Donation / Support

寄付・協賛

Donation 寄付・協賛の内訳



今年度も多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。

月額寄付（マンスリーサポーター）になりませんか？

障害、年齢、性別、文化などの違いに関わりなく多様性を認め合えるインクルーシブな社会の実現を目指すモンキーマジックの活動に、継続的に支援いただけるマンスリーサポーターを募っています。

マンスリーサポーターの皆さまとは、ただ応援していただくだけの関係ではなく、社会をより良くするためにできることや、多くの方に届けるためのアイデアを共に考える仲間になっていただければと考えています。ぜひ、皆さまのご支援をお願いいたします。



月額寄付会員の
詳細はこちら▼



Support 支援企業様

寄付企業／団体(一部)

- 朝日ライフアセットマネジメント株式会社
- 株式会社リプライ（ノバリアクライミングジム）
- LINEヤフー株式会社(LY corporation)
- 株式会社カンセキ
- アサヒ飲料寄付型自動販 売機設置各オーナー

協賛企業

- THE NORTH FACE(株式会社ゴールドウイン)
- CHUMS(株式会社ランドウェル)
- 株式会社シーワテック
- ROKX(株式会社 SN Japan)
- 株式会社箕面ビール
- 株式会社敬洋
- アサヒ飲料株式会社

賛助企業

- 株式会社シーワテック

助成団体

- ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団
- ルルレモンアスレティカ JP 合同会社



SHIWA TECH





About

モンキーマジックについて

Vision

障害者クライミング普及活動を通じて、多様性を認め合えるインクルーシブな社会を実現し、より成熟した豊かな社会を創ります。

Mission

モンキーマジックとは、「見えない壁だって、越えられる。」をコンセプトに、フリークライミングを通じて、視覚障害者をはじめとする人々の可能性を大きく広げることを目的とし、活動しているNPO法人です。

Value

クライミングを通じ、
自分の成長を実感できる体験を届けます

成長の実感は、自発的な行動により新しいチャレンジ、コミュニケーション、ネットワーキングを通じて得られるものであると考えます。

私たちは、関わる人すべてに、できないと思っていたことができる経験、出会ったことがない人々との出会い、見たことがないほどの笑顔を届けます。



FOLLOW US! >>> @npomonkeymagic

モンキーマジックとコラボレーションしませんか？

多様性理解促進を目的とした講演、クライミング体験プログラム、映画『ライフ・イズ・クライミング!』上映会、企業研修等を実施しています。お気軽にご相談ください。

